



お客さま満足のために

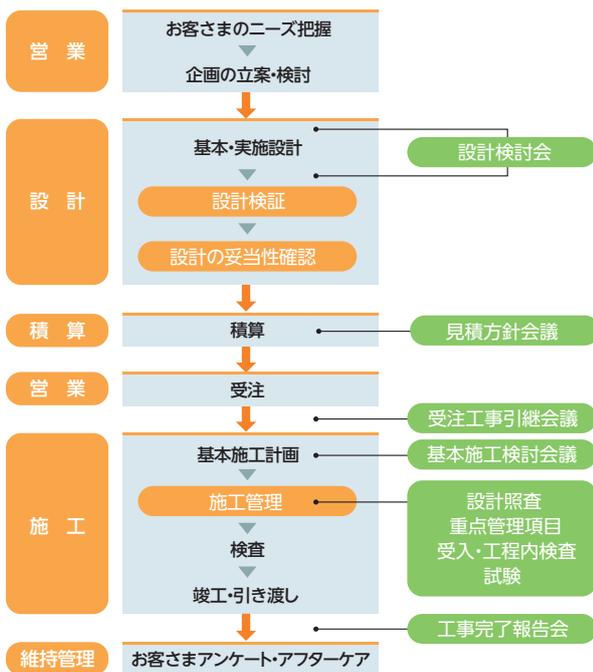
フジタの考え方・体制

社会的基盤の形成や維持といった建設業の基本的役割と責任を十分に果たすと共に、多様化するお客さまのご要望にお応えすべく、品質の向上を目指しています。

1996年より品質マネジメントシステム(ISO9001認証取得)を構築・運用し、下図のような品質マネジメント体制で取り組んでいます。そして、お客さまの求める品質をよりの確に実現するため、経営者がシステム全体の運用状況を定期的に点検し、継続的な改善に努めています。また、「品質・環境・物損事故報告制度」を設け、施工中・施工後に事故が起きた場合には、速やかに問題を解決し、再発防止策を水平展開する体制を整えています。さらに、アフターケアについては、情報の一元管理、全支店共有ができるデータベース「お客さま対応システム」を構築し、本社・支店が連携して迅速に対応できる体制を整えています。不具合情報は研修などの教育にも反映し、品質の向上と事故の未然防止に役立っています。

また、2019年度から運用を開始した「建設基幹システム」では、個人のノウハウと経験を共有するため全作業所の情報を集約し、技術の速やかな継承を図っています。

品質マネジメント体制図



よりよい品質を目指した取り組み

技術開発・アフター体制など

建設技能者の高齢化や若年入職者の減少による将来的な労働者不足などの課題を解決するため、ICT(情報通信技術)やIoT(モノのインターネット)、ドローン(小型無人機)などを活用し、生産性向上につなげる技術開発を積極的に行なっています。

2021年度からは設計部門に工事監理機能の強化のため工事監理部を新設、さらにアフター体制の強化のため全支店にBLC(Buil Life Care)推進部を新設し、お客さまの満足向上に向けた組織体制の構築を行なっています。

Topics

FCF工法による外壁改修 仁保ビル外壁改修その他工事

安全性の確保、施工性の向上、工期短縮などの面から当社保有技術の【FCF工法】を採用して、外壁改修工事を行なっています。

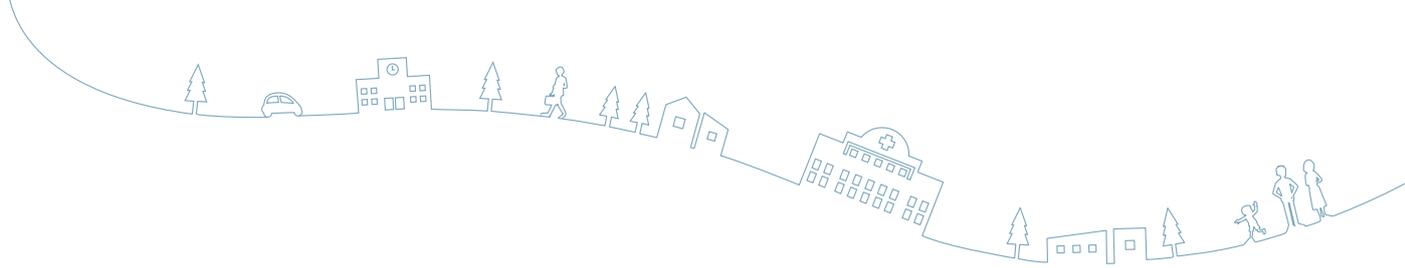
【FCF工法】とは、『Fast Failsafe Climbing Form』(水平昇降ロボットジャッキシステム)の略で、外部足場ユニットを複数のロボットジャッキによって建物から支持した鋼管ロッドを把持して昇降させるシステムです。

低い位置で外壁改修作業用足場を組み立て、高層部まで足場をジャッキアップすることで、高所での足場組立作業を無くし、安全性を最大限確保することができます。

加えて、足場の資材・組立解体を従来工法に比べ削減することができるため、CO₂の発生量を低減し(本施工の場合25%程度に削減)、グリーンな施工を実現しています。



仁保ビル外壁改修工事
(発注者:西日本電信電話株式会社 施工場所:広島市)



建設DXへの取り組み

設計者、発注者、施工担当者など、各関係者間での合意形成をスムーズにするBIM・CIM。当社では、2021年度からは国内建築におけるすべての設計施工案件でBIMを導入しています。そのBIMデータを設計だけでなく施工にも活用し、建築生産プロセス全体のデジタル化を推進しています。また、竣工後にお客さまが使えるBIMとしてFM(ファシリティ・マネジメント)ツールの開発も進めています。土木分野のCIMについても引き続き施工における有効活用を図っています。

当社のビジネスにおけるDXの推進を通じて、日本が目指すSociety5.0を支える社会インフラのデジタル化に貢献していきます。

品質検査水準の統一化

若手社員やベテラン社員に関わらず全員が一定水準で施工中の建物の品質検査が実施できるよう、当社では「施工品質評価基準」をすべての作業所に適用しています。

また、工法の指針についても品質確保と品質向上のため多方面の視点から見直し、適宜各種規程の改訂も実施しています。

コロナ禍の海外作業所支援

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ海外作業所に対するリモート支援を推進しています。作業現場において360度カメラやWEBカメラ、WEB会議システムなどを活用し、遠隔からの海外作業所の見える化を行い、より多くの目で現場を見ることで安全で確実な施工を目指しています。

エチオピアの作業所では、日本とカタールの拠点事務所からカメラを通して現場状況を把握した上で安全・品質・工程管理の支援を行なっております。

今後も海外作業所ではITツールを積極的に導入して、安全・品質・スピードの向上によるお客さま満足の追求と共に、BCPの観点にも注目しさまざまな取り組みを進めます。

フジタのVE

1968年に日本の建設業で初となるVEを導入して以来、お客さまにご提供する建設物・サービスの価値向上を目指し、VE活動を展開しています。

2019年度からIoT、DX、SDGsを意識したVE活動を展開し、変革の時代においてVE検討を業務フローに組み込み付加価値提案と生産性向上を図っています。また、全社および協力会社と関係会社も含めて毎年度開催しているVE実施事例の発表会では2020年度より環境賞を設け、環境に配慮したVE活動にも積極的に取り組んでいます。

■ VE(Value Engineering)とは

お客さまが求めている働き(機能)と、それを手に入れるために必要な資源との関係性を評価し、最適な方法を提案することにより、お客さまに高い満足をご提供するエンジニアリング手法です。VEが追求する価値は、機能と資源の関係で表され、VEは価値を向上させるとともに、価値を創造します。

$$\text{Value (価値)} = \frac{\text{Function (機能: 得られた効用の大きさ)}}{\text{Resources (資源: 使用した資源の大きさ)}}$$

コロナ禍の海外作業所管理

